

行政視察報告

(総務企画委員会)

○委員長 岡本 早智雄

○副委員長 飯橋 由久

○委員 作野 幸憲 佐々木 厚子 湯浅 正志

<視察目的>

・香川県坂出市

人口減少・少子高齢化の進行及び人口の東京一極集中に歯止めがかからない中、地方の各自治体は、その対策の1つとして地元中小企業への支援や創業支援を行い、雇用の場の確保を行っている。

安来市においても、市、JA、商工会議所、商工会の4団体による産業支援団体「産業サポートネットやすぎ」を立ち上げ、地元中小企業への支援や創業支援を行っているところである。

香川県坂出市においては、全国20箇所以上ある公設民営型のビジネス支援センター（中小企業の産業支援施設）、いわゆる Biz モデルを令和3年（2021）から設置し、センター長を中心に複数のコーディネーターを配置し、年間1,200件以上の相談実績を持っている。

中小企業支援・創業支援の最新状況を把握するため、視察を行うこととした。

・愛媛県西条市

人口減少・少子高齢化の進行及び人口の東京一極集中に歯止めがかからない中、地方の各自治体は、地域の担い手確保として、様々な移住・定住の取り組みを行っている。

安来市においても、定住（やすぎ暮らし）サポートセンターを設置し、定住相談を実施するほか、就活スタートガイダンス、空き家バンク制度、中学3年生までの医療費無償化などを行っているところである。

愛媛県西条市では、完全オーダーメイド型の1泊2日無料個別移住体験ツアー、無料アテンドサービス、東京23区からの移住&就職で最大100万円助成などを行い、「住みたい田舎ベストランキング」で上位をキープしている。

今後の安来市での移住・定住の取り組みの参考とするため、視察を行うこととした。

<視察概要一覧>

視察月日	視察先	視察施設	視察内容
7月29日 (火)	香川県坂出市	坂出市役所 坂出ビジネスサポート センター	ビジネスサポートセンター事業について
7月30日 (水)	愛媛県西条市	西条市役所	移住・定住の取り組みについて

<視察概要報告>

1. 香川県坂出市

●市 勢（坂出市議会要覧より）

*市制施行 昭和17年7月1日

*人 口 47,617人(R7.4.1.現在)

*世 帯 数 21,070世帯(R7.4.1.現在)

*面 積 92.46km²

●対応部署： 議会事務局、建設経済部産業課
坂出ビジネスサポートセンター

●説明概要

ビジネスサポートセンター事業について



＜考 察＞ （視察先ごと、個人ごとに記載する）

◎岡本 早智雄 委員長

香川県坂出市では、静岡県富士市の「富士市産業支援センター（f-biz）」をモデルとした中小企業支援センター事業を実施している。

支援と言えば財政的支援などが主とされるが、坂出ビジネスサポートセンターでは、経営に関する課題解決を事業者に寄り添って一緒に進めていく体制を作ることで事業者支援を実施している。これは、200名の候補者の中から選任された、事業運営に関する知識・経験が豊富なセンター長の力量と人脈によるところが大きいと思われる。もし、そういった人材を確保できる体制と仕組みを作るためには、産業支援体制のあり方も見直さなければならないと感じた。

現在は市の一般会計でセンターの運営をしておられるということだが、市外の利用も4割あるということで、ビジネスに市内も市外もないため受け入れているが、市としては悩ましいところではないかと推察した。ある程度の広域的な取り組みが近隣市町村とも出来る仕組みを含め、考えていかなければならないのではないかなと思う。結果、圏域で産業振興の連携と働く場の増加による人口増加につなげる取り組みを考えなければならないと思う。

◎飯橋 由久 副委員長

坂出市は、経営上の課題を抱える中小企業や企業を志す人の課題解決に向けた挑戦を、相談者と同じ目線に立ちながら伴走的に支援することを目的に、令和3年(2021)2月28日に坂出ビジネスサポートセンターを開設した。事業実施の経緯としては、静岡県富士市の富士市産業支援センター（f-biz）をモデルに人吉市、天草市のBizを視察し、独自の中小支援センターであるBizを開設したものである。大きな特徴としては、従来の自治体が行っている補助金の助成やそのものの上乗せだけでは地元企業の将来性や発展はないとの考え方から、支援策の実効的な活用に重点を置いていることである。そこにはセンター長を中心に専門スタッフも常駐し充実している。およそ自治体行政では門外漢ともいわれる「儲ける」ことに特化して取り組んでいることに大いに驚き、共感した。確かに担当スタッフの確保が最も重要でかつ大変な努力を必要とされるが、本市においても今後、地域経済が疲弊していく中、行政が地元企業の持続可能な経営ができるように、商工会議所と連携をし、より深くかかわっていかなければならないと感じた。

◎作野 幸憲 委員

いま中小企業支援の成功モデルとして、全国の自治体から注目を集めている「Bizモデル」。坂出市は四国初の試みとして、令和3年(2021)に「坂出ビジネスサポートセンター（サカビズ）」を開設し、チャレンジする中小企業者や創業を考えておられる方を全力でサポートしておられました。現在スタッフはセンター長を含め7人ほどでオンラ

インを使って専門スタッフからの助言も受けられる体制になっていて、年間 1,200 件、累計で 4,100 件の相談・支援をしておられました。相談時間は 1 回 1 時間。結果が出るまで何度でも無料で利用でき、フランス料理店の出店の方や農産物の売上アップの支援など業種に関わらず、あらゆる事業の相談に応え、素晴らしい実績を上げておられました。

センター長の名刺の裏には、「御社を稼げる会社に変えます。強みを発見、お金をかけず知恵を絞って売上アップの具体的なアイデアを提案」と書いてありました。サカビズが実績をあげられているのは、やはりセンター長の力、人の力が大きいと感じました。

安来市でも市・商工会議所を中心に様々な支援が行われていますが、今回の視察を終え、サカビズのような公設民営の産業支援拠点の設置も検討してみてはと思いました。

◎佐々木 厚子 委員

坂出市は令和 3 年(2021)に「坂出ビジネスサポートセンター（サカビズ）」を開設し、チャレンジする中小企業や創業者のみなさまをサポートする公的支援機関としてスタートされました。アドバイスではなく相談者の強みを見つけ、お金をかけず知恵を使って売り上げアップさせるための具体的なアイデアを提案し、単発ではなく継続的な支援をされているとのこと。新たに起業したい人や、売り上げが伸びず悩んでいる事業者にとってはとても心強い存在だと思いました。具体的な成功事例も伺いましたが、あきらめることなく目標に向かってチャレンジし見事、夢を実現した人などの話を聞く中で、このサカビズ存在は今後のまちづくりに大いに貢献するものであると思うと同時に、いったんはふるさとを離れていても、最後は地元に戻り起業したいと思う人、また坂出が好きでこのまちで夢を叶えたいと思う人たちの頼れる存在として今後ますます利用者が増えていくと思います。また、森センター長の今までの経験に基づくアドバイスはとても具体的で的確なものであり、相談者の方たちはとても心強いと思いました。

坂出市には、新しいものを受け入れる風土というか、寛容な心がある地域だと思います。ますます発展されることを心から願っています。たいへん参考になりました。

◎湯浅 正志 委員

中小企業支援の成功例モデルとして、全国の自治体から注目を集める「Biz モデル」「Biz モデル」とは「強みを見だし、お金をかけることなく、『知恵』をつかってビジネスの流れを変える」。これが、Biz モデル型支援の特徴であり、地元の中小企業・個人事業主から、丁寧に話を聞くことで、その事業者ならではの特徴を見つけ出し、それを引き出すための適切なアドバイスを行い、ときにはそれが実現するまで徹底的に伴走することで、事業の流れを変え、売上アップに貢献することが Biz モデル型支援であるが、坂出市が行う「サカビズ」とはどのような支援策か視察する。

坂出市のサカビズは四国初の「Biz モデル」拠点として、令和 3 年(2021)2 月より相

談業務を開始され、令和 7 年度からは新たにセンター長を全国公募により採用し、センター長の会社へ委託する元来の「Biz モデル」とは違う手法がとられていた。

センターを運営する森センター長から事業内容の説明を受け、ポイントはビジネスの観点から「地域創生」を目指し、創業・新事業進出・展開の伴走支援を行うことであり、売り込むには「SNS を見せたい企業をフォローする」の発想には納得できた。これに係る数名のコーディネーターはセンター長の人脈により採用された各部門の専門家であることから、サカビズはセンター長の力量と人脈で成り立っているであると感じた。

安来市でも支援事業が行われているが、更に相談者に寄り添い具体的な戦略を提案し、伴走支援を行う取り組みが必要と実感した。

2. 愛媛県西条市

●市 勢（西条市議会要覧より）

＊市制施行 昭和 16 年 4 月 29 日（平成 16 年 11 月 1 日新設）

＊人 口 102,924 人(R7.3.31 現在)

＊世 帯 数 50,860 世帯(R7.3.31 現在)

＊面 積 510.04 km²

●対応部署： 議会事務局、市民生活部移住推進課

●説明概要

移住・定住の取り組みについて



＜考 察＞ （視察先ごと、個人ごとに記載する）

◎岡本 早智雄 委員長

愛媛県西条市では、移住定住に向けた取り組みについて、オーダーメイド型の移住ツアーや無料アテンドサービスなど、非常にきめの細かい様々な支援を実施されている。

また、起業に特化した新たな産業の創出を目的とした、「ローカルベンチャー育成事業」も実施され、既存の企業等への就職による移住に加えて、移住して起業できる環境も整えておられた。

費用として見えにくい市としての手間や人件費以外では、年間予算 3,800 万円とのことだが、この内半分以上が住宅改修等支援の費用と思えば少ない予算で結果を出されていると感じた。そういった意味では、やり方次第で切れ目のない、きめ細かい支援を実施すれば移住定住に効果を生むことが出来るのではないかと感じた。

全国的に人口減少を様々な方策を実施されている中で、選んでもらうことは非常に難しいと感じている。また、西条市でも首都圏、大都市とターゲットを絞っての取り組みだったと思うので、安来市としてどこを目指していくのか、再度検証し効果的な定住政策を考え直さないといけないのではないかと感じた。

◎飯橋 由久 副委員長

西条市は、人口減少が著しいことから様々な移住・定住施策に取り組んでいる。どこの地方都市でも同様であるが、人口減少対策として「社会増」に絞り、イコール「移住」に力を入れている。「無料個別移住体験ツアー」は、職員が公用車で送迎、アテンドしてまちの情報を伝え、移住後のイメージに近い先輩移住者に会いリアルな声を届ける、人をつなぐツアーとして高評価を得ている。加えて、1泊1,000円で30泊まで可能なお試し住宅制度もある上に、ツアーには空き家バンクにも力を入れている、

「移住の決め手は人」という観点から、ツアー希望者に添うために日祝祭日も対応し、担当職員の言葉からも人口減少に取り組む並々ならぬ思いが感じ取られ、最後はそこに関わる「人の思い」が決め手になることを再認識させられた。

◎作野 幸憲 委員

少子高齢化による人口減少、東京一極集中など地方が抱える問題。西条市では雑誌の令和3年(2021)版住みたい田舎ベストランキングで全4部門（若者世代・子育て世代・シニア世代・総合部門）すべてで全国1位になったことで、今までやっていた移住施策（オーダーメイド型無料個別移住体験ツアーや無料アテンドサービス、お試し移住用住宅など）を拡充し、ターゲットを関東・関西の大都市圏の子育て世代に絞り、移住の取り組みとシティプロモーションに力を入れ、移住者数は平成29年度(2017)の106人から令和5年度(2023)は1,518人と約15倍の伸びを見せ、成果を上げておられました。

その中でも東京・大阪でのセミナーに力を入れておられ、セミナーに参加することで無料個別移住体験ツアーに招待し、その人に合った先輩移住者や場所を紹介し、西条に住んでみたいと思ってもらうことを大事にしておられました。その結果、移居前から人のつながりができ、移住者が移住者を呼ぶ好循環ができ、移住者の約8割が子育て・働き世代ということでした。

安来市も東京や大阪で移住フェアなどに参加していますが、なかなか成果は上がっていないです。今回研修の最初に見せてもらった西条市を紹介する動画（＃いってこーわい西条）はとてもよくできていて、西条市のシティプロモーションを「LOVE SAIJO」として統合し、この動画を見るだけでも西条市の魅力・強みがよく分かるものになっていました。また西条市ではドコモのビッグデータを活用したデジタルマーケティングなども実施しておられ、プロモーションもここまで進んできているのかと感心しました。

今の安来市の動画は淡く美しくというコンセプトでアップされていますが、これでは安来市の魅力・強みが分かりません。まずはターゲットを絞り、安来市の魅力・強みが分かる動画などでシティプロモーションを再考すべきと思いました。

◎佐々木 厚子 委員

西条市は、宝島社発行の「田舎暮らしの本」で、「住みたい田舎ベストランキング」

若者世代部門で3連覇を達成されていてとても興味深く思っていました。

移住推進の特徴的な取り組みとして「LOVE SAIJO」サイトによる移住促進情報の発信、無料個別移住体験ツアーにおいては1泊2日のツアーに参加する人の往復交通費、宿泊、食事滞在費にかかる費用を市が負担していること。その後体験ツアーに参加した人への無料アテンドサービスを市職員が専属でコンシェルジュとなりサポートしていることなど、移住推進に対しての取り組みがとても素晴らしいと思いました。また、「SAIJO BASE」（ひと・夢・未来創造拠点複合施設）を令和4年に運用開始され、市民等の交流促進とチャレンジを応援するための施設として、移住コンシェルジュ2名を常駐させ、空き家バンクの運営やお試し用住宅、移住相談業務に従事されているとのこと。起業、就職、転職、社会貢献、移住など何らかの形で関わりたいと言う人たちを支援し、「市内在住者」のみならず、「移住者」や「関係人口」を含めた「活動人口」を増やし、持続可能なまちづくりを実現していくなど、坂出市でも感じましたが、西条市も新しいものを受け入れることへの寛容さを感じます。今住んでいる人も、新たに移住してきた人も共にこの地で幸せに暮らしていく。そのためには色々なアイデアを出しあい、この町をさらに活気あるものとしていく。住みたい田舎ベスト1に選ばれる理由がよくわかりました。西条を愛する気持ちがとても伝わってきた今回の視察でした。今後の安来市の支援施策に活かしていきたいと思います。

◎湯浅 正志 委員

安来市も少子高齢化による人口減少が加速する中、一定の人口規模を確保する事業として移住・定住支援事業が行われているが、宝島社が発行する「住みたい田舎ベストランキング」若者世代部門で3連覇を達成した西条市の移住施策について視察する。

西条市も安来市が抱える問題と同様な悩みを持ち、人口減少に伴う社会活動の縮小から人口減少対策として転入促進の取組が始まった。移住者に魅力を伝える情報発信力の不足から知名度をあげるプロモーションの推進と共に多方面からアプローチし、移住・定住者の増加に向けた数々の施策に取り組まれている。その中でも最大の特長である各参加者のライフスタイルや関心事に合わせて人と人をつなぎ、移住後の生活イメージを持てるよう「密着軸」によるツアーは魅力的であり、移住前から知り合いが出来る事は安心して移住を考える要素となると思う。さらに、各自治会に出向き地域支援者（地域で移住検討者、移住者をサポートする人材）を募集し、移住後も日常生活、地域生活をサポートする伴走型の支援が行われている事はとても参考となった。

移住する前から地域に知人がいて生活を始める環境は安心して移住・定住が選択できる要素でもあると考える。さらに、西条市のように伴走型の支援で人と人の繋がりで移住者が移住者を呼ぶ好循環な施策にせねばならない。安来市もこの様な視点を持ち移住・定住施策を引き続き取り組まなければならないと思う。